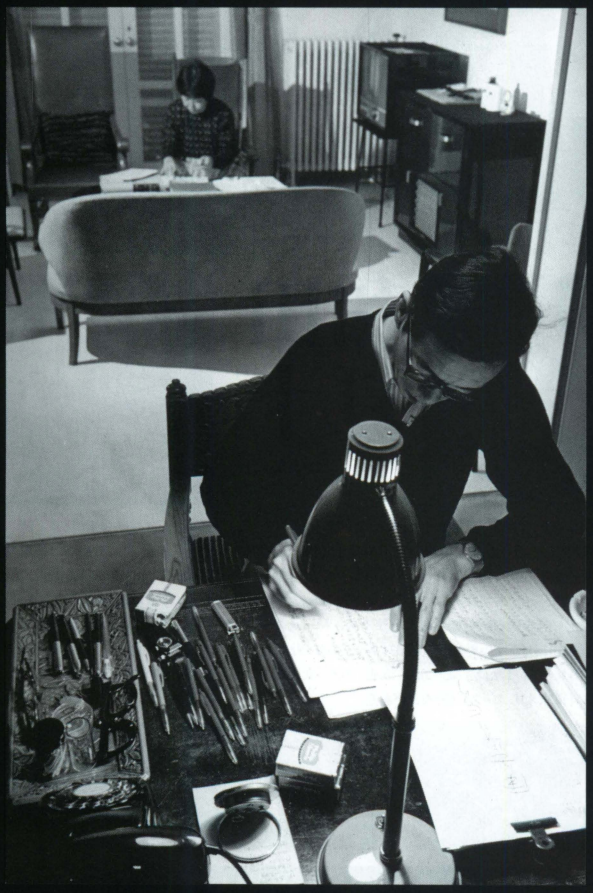
歳の差なんて関係ない
この世で一番
話の合う人に
出会ってしまった。

岩井俊二



市川崑物語

監督 岩井俊二

www.ichikawakon.jp

監督・脚本・編集・音楽：岩井俊二／プロデューサー：一瀬隆重
製作：ロックウェルアイズ　角川ヘラルド映画　オズ／製作プロダクション：オズ　ロックウェルアイズ／製作協賛：インディペンデント・フィルム・ファンド／配給：ザナドゥー

©2006「市川崑物語」製作委員会

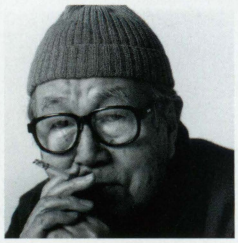
全世界待望の岩井俊二監督最新作!

鬼才・岩井俊二が、巨匠・市川崑を撮る!!

日本映画界夢のビッグプロジェクト、市川崑監督最新作『犬神家の一族』(12月16日公開)。その公開を記念して、『市川崑物語』が製作された。監督は、本作が『花とアリス』以来の新作となる岩井俊二。
これまで『Love Letter』『スワロウテイル』『リリイ・シュシュのすべて』など、数多くの名作を生み出してきた彼は、実は市川崑から多大なる影響を受けていた。その岩井俊二が、彼ならではの視点で、名匠と讃えられる市川崑のこれまでの軌跡を辿り、尊敬と憧憬、そして敬愛を込めた一本の映画を完成させた。

描かれるのは、市川崑の幼少期から太平洋戦争を経て、現在に至るまでの物語。これまであまり語られることのなかったアニメーター時代などが、貴重な発掘映像と共に語られる。
中でも、生涯の伴侶であり、シナリオライターとして名コンビを組んだ和田夏十との想い出は、映画人・市川崑が形作られた過程として描かれるが、岩井俊二ならではの解釈と演出により、一私人・市川崑のラブ・ストーリーとして昇華され、観る者の心を揺さぶらずにはおかない。
また、1976年版『犬神家の一族』が、「自分の映画作りの教科書」と語る岩井俊二の、市川崑の世界との出会いも、当時の興奮をそのままに描かれている。

今もなお数多くのクリエイターに、影響を与えている市川崑。
憧れの巨匠の生き方に深く触れることで、さらなる共感を覚えた岩井俊二。
日本映画を代表する2つの才能が出会い、かつてないスタイルの映画がここに誕生した!



市川崑

(いちかわ・こん)

1915年、三重県生まれ。
33年に京都J・Oスタジオ(東宝の前身)に入社。48年、『花ひらく』で監督デビュー。多彩なアプローチで、50年代『ビルマの竪琴』(56)『炎上』(58)、60年代『おとうと』(60)『黒い十人の女』(61)『東京オリンピック』(65)、70年代『犬神家の一族』(76)から始まった"金田一耕助シリーズ"、80年代『細雪』(83)、90年代『四十七人の刺客』(94)など、個性的かつ極上のエンターテインメント作品を次々と世に送り出してきた名匠。最新作は、2006年12月16日公開の『犬神家の一族』。

和田夏十

(わだ・なっと)

本名・市川由美子。1920年、兵庫県生まれ。
脚本家。通訳として勤めた東宝撮影所で市川崑と出会い、48年結婚。一男一女の母。49年、市川崑作品『人間模様』で"和田夏十"のペンネームでデビュー。当初は夫でもある市川崑監督との共同ペンネームだったが、51年の『恋人』から夫人単独のペンネームとなる。83年逝去。代表作に『ビルマの竪琴』(56/85)『炎上』(58)『野火』(59)『黒い十人の女』(61)『私は二歳』(62)『破戒』(62)『太平洋ひとりぼっち』(63)『東京オリンピック』(65)などがある。

岩井俊二

(いわい・しゅんじ)

1963年、宮城県生まれ。
95年、『Love Letter』で長編映画デビュー。96年には、架空都市「円都」(イェンタウン)を舞台にしたサクセスストーリー『スワロウテイル』を発表。劇中バンドYEN TOWN BANDの「Swallowtail Butterfly～あいのうた～」も映画と共に大ヒットを記録。90年代を代表とする映像と音楽との見事なコラボレーションを展開した。代表作に『四月物語』(98)『リリイ・シュシュのすべて』(01)『花とアリス』(04)などがある。

監督・脚本・編集・音楽:岩井俊二
プロデューサー:一瀬隆重
製作:ロックウェルアイズ　角川ヘラルド映画　オズ
製作プロダクション:オズ　ロックウェルアイズ
製作賛助:インディペンデント・フィルム・ファンド
配給:ザナドゥー　©2006「市川崑物語」製作委員会

日本映画史上最高のミステリー超大作
市川崑監督『犬神家の一族』12月16日(土)ロードショー
出演/石坂浩二、松嶋菜々子ほか

2006年12月9日(土)緊急公開決定!

新宿伊勢丹本館前・明治通り側(旧新宿文化シネマ)

新宿ガーデンシネマ

03-5361-7878
www.gardencinema.jp